

仏様のおはなし新シリーズ第92集「さるべき業縁」

テレビの「ニュースで多くの悲惨な事件を目にします。親が子を殺し、子が親を殺す。無差別な大量殺人。そんなニュースが当たり前のように報道されています。そういうニュースを目にする中いつも思い出す教えがあります。

それは歎異鈔というお書物の中で親鸞聖人がお弟子の唯円さんに仰せになつた「さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまいひもすべし」というお言葉です。

「自分の心が善いから殺さないわけではない。また、殺すつもりがなくとも、百人あるいは千人の人を殺すこともあるだろう」と親鸞聖人は仰いました。

「最低な人間もいるもんだ」「こんな奴は死刑だ」ニュースを見ながらそんな事を思つている私も縁さえ整えば何をするかわかりません。そうせずにおれでいるのは、周りの支えのお陰と気づかせてもらいたいものです。

虐待をして我が子の命を奪つた事件に関して

同じ年齢の子をもつお母さんにインタビューをしている映像をみました時、「とても信じられないような事件だけれども、そう遠くの話ではない思います」と答えておられたお母さんがおられました。

そこには自分も縁さえ整つてしまえば同じような事をしてしまうかもしないという、自分の姿を真剣に見つめていた上からのお言葉であつたんだと受けとめました

あの我が子を虐待して、死なせてしまつた親に誰か一人でも、悩みを聞いてくれる方がおられたら、もしそこに無条件で自分を受け入れてくれる存在があつたなら、失われなくてすんだ命があつたんじゃないかと思います。

我々がきかせていていただく阿弥陀さまという仏様はどんなことがあつても「の私を見捨てない智慧も慈悲も量ることのできない仏様であります。そのような仏様とならねばならなかつた理由が、そんな何をしてかすかわからぬ私のありようにあるんではないかと思うことであります。

